

夢よりいそがれ

もっと

1



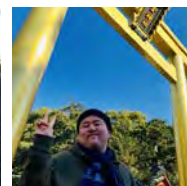
発行・編集
いぶきファミリー
(いぶき福祉会後援会)

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL. 058-233-7445
FAX. 058-232-9140
E-mail: ibuki@alto.ocn.ne.jp

2019年1月20日発行



良い年になりますように…



あけましておめでとうございます。
年末年始は、皆さんいかがお過ごしでしたでしょうか。いぶきも元気な顔が揃って、和やかに新しい一年を始められることを大変嬉しく思います。今年も、ひとりひとりの願いが少しでも叶えられるよう職員一同精いっぱい取り組んでまいります。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

15-16

情報掲示板

14

がんばるデイ報告

10-13

シリーズ…座談会

8・9

仲間のすがた

7

映画上映会&横島若騎講演会報告

6

こよみのよぶね報告

4・5

いぶきの将来を考える会報告

3

シリーズ…私と息子といぶきと

2

新年のご挨拶

もくじ



2019
winter
Vol.197



今年を羽ばたく年にしよう 新年のごあいさつ

新年おめでとうございます。

昨年中は、いぶきが大層お世話になりありがとうございました。本年も、引き続きよろしくお願いします。

日本は今かなり長い間好景が続いていると言われています。実際にその恩恵を受けている人も相当数あるでしょうが、格差が広がり、介護や医療について、年金等について将来に不安を抱く国民も多いと思います。

いぶきは、基本的には国から支払われる介護給付費等で活動していますが、これらは施設の存立をようやく維持できる基準で支給される場合が多く、国からの収入だけでは、いぶきが目指す障害者福祉の実践はできません。又いぶきが目指す新しい施設をつくっていくことができません。

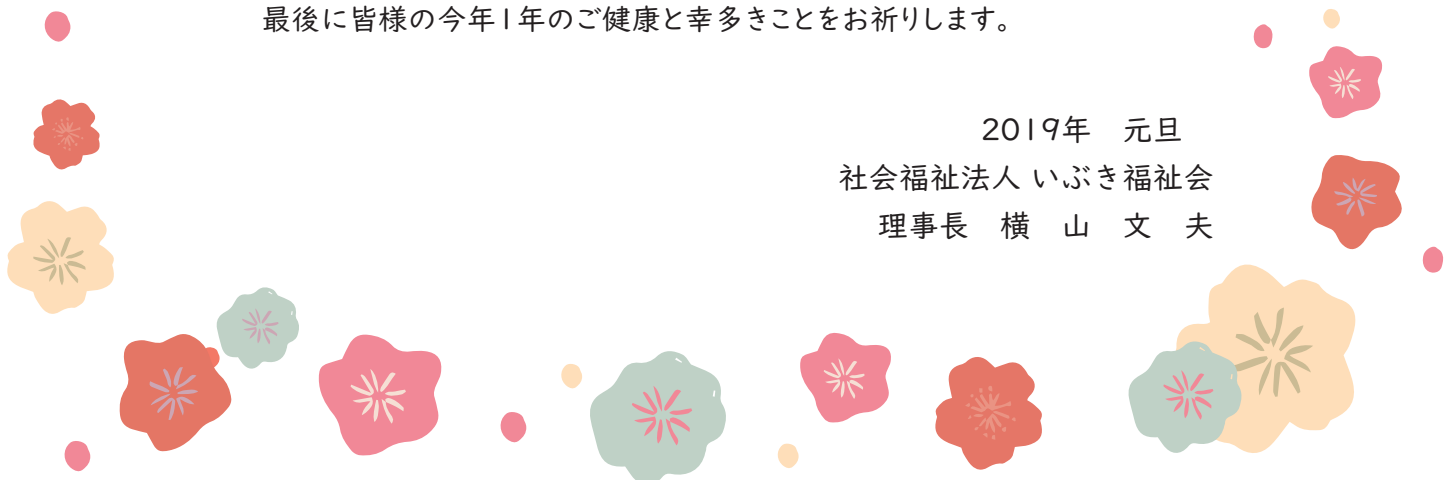
いぶきは、いぶきに入所しておられる利用者や保護者の皆さんの年齢、家族環境、これから入所される皆さんの希望を検討し、北部事業所（第二いぶき）に、新しい通所の障害者施設とグループホーム・ショートステイ施設を新しく建築することを既に決定して、現在新施設建築の準備を進めています。

いぶき設立の初志である「どんな重い障害のある人にも、働く場と生活の場を」をいぶきの現段階に適合させて実践していくこれらの新施設を建築し、運営していくには、大変な資金が必要です。いぶきは、これまで、新しい施設を建築する際、広範な皆さんに寄付をお願いしてきました。それらの寄付が、いぶきが借金をせず、先進的な福祉施設づくりに取り組んでこられた原動力になってきました。

長い間いぶきを応援していただいたいぶきファミリー（旧いぶき福祉会後援会）の皆さん、利用者と保護者の皆さん、職員の皆さん、そして理事・評議員の皆さん、今年を、いぶきのために羽ばたいて、新施設をつくり、仲間の皆さんが人間らしく暮らせるいぶきづくり、保護者の皆さんと共に歩ける施設づくりを、一緒にしていただける年にしていけるよう心からお願い致します。

最後に皆様の今年1年のご健康と幸多きことをお祈りします。

2019年 元旦
社会福祉法人 いぶき福祉会
理事長 横山 文夫





もうすぐ新元号にかわりますが、平成8年の天皇誕生日(12月23日)に我が家の第一子で長男、祥也は生まれました。産後は母子ともに健康で至ってごく普通の成長でした。1歳半になる頃、言葉がなかなか出てこないことに気づきました。心配になり、大学病院で検査を受けたのですが、異常は見られないという診断でひと安心でした。しかし行動的には健常児とはちよつと違う感じはありました。幼稚園に入園する頃には、よその子とは明らかに違いが見られ、我が子が障害をもっ



ていることは受け入れざるをえませんでした。ただ、「そついう子供は、それがとに生まれてくる。」という言葉が支えになったのを記憶しています。

地元の理解ある園長先生のおかげで、通常の幼稚園に入園できましたが、健常児との違いに、毎日ハラハラする日々でした。子供は地元で育てたいとの考えがあつたので、その後も地



元学区の小学校に入学しましたが、どうにも対応が良くなく、転校をしました。当時私は一介のサラリーマ

ンでしたので、育児は妻に丸投げ状態で、妻が東奔西走し、少し離れた小学校の特殊学級に転校しました。以降、岐阜本巣特別支援学校の中学部、高等部と進学しました。この間、高等部卒業までは良き先生、クラスの友達に恵まれ順調に成長してきたと思います。いろいろな方と出会い、つながりができ、人とのつながりがありがたく思っております。高等部卒業前にはその後の進路のため、たくさん施設を見学して回り、その中で第一希望のいぶきに入所することができました。

祥也はもともと多動性です。走りまわったり、ジャンプしたり、奇声を発したりします。小学校の頃は自傷行為がひどく、自分で頭を叩き、血だらけだったこともよくありました。また、失踪癖には苦労させられました。ちよつとした隙に居なくなってしまうのです。(今でも目は離せません)自宅にいるときはもちろん、学校からも何度か行

方不明になりました。一番記憶に残っているのは、これも小学校のときですが、遠方、横浜まで行ってしまったことがあります。自宅はJR西岐阜駅の近くなのですが、そこから、名古屋で新幹線に乗り換えて、横浜まで行ってしまったのです。(もちろん無賃乗車です。)

この時は、警察からJRに連絡していただき、東京行の新幹線の座席に座っていたのを車掌さんが発見してくださり、新横浜駅で降ろされ、妻が迎えに行



きました。新幹線好きは今でも続いている、月に何度か新幹線を見るために岐阜羽島駅のホームに行っています。

いぶきに入所した当初は、



環境の変化に対応できず、本人も不安定な時期を過ごしましたが、職員の方々のおかげで、今はずいぶん落ち着いてきました。身の回りのことですら少しの補助は必要で、親でもイライラすることが多いですが、そんな祥也を日々支えて下さる、いぶきの職員の方々、仲間の皆さんには頭が下がります。入所後に成人を迎え、華やかに祝っていただき、感謝しております。まだ入所3年目の新参モノですが、いぶきの仲間みなさん、職員の方々にかわいがっていただけるような存在になれることを願っております。

上松 史明

いぶきの将来を ともに考える会

1 会の概要

11月2日(金)と11月3日(土)と11月6日(火)の3日の日程で「いぶきの将来をともに考える会」をいぶきにて行いました。

この会はいぶきの仲間の保護者の方を集まっていただき、いぶきの成り立ちや、いぶきの歴史を確認するとともに将来について考える場として開催しました。

いぶきは養護学校(現・特別支援学校)卒業後、地域での集う場、通う場を作ろうと親や関係者が地域の方々に協力を得ながら少しずつ活動の輪を広げてきました。活動の輪を広げる際に大きな役割を果たしたのが募金活動です。いぶきでは、法人認可・第二いぶき・コフボいぶき・パストラルいぶき建設と4回の募金活動を行っ



1994年旧島支所いぶき

ています(次ページ参照)。

募金活動では主に仲間とその親たちが先頭に立って自分たちと子どもの現状を訴えてきました。施設がでない地域で当たり前に暮らせないという必死な願いは多くの方々の共感を得て支援の輪がひろがり、募金は毎回目標達成し、施設ができてきました。募金活動で私たちの願いを伝えることは、自分たちの存在を確認し多くの人々に理解を得られる大切な機会となってきました。そして、運動によって、たくさんの新しい仲間がいぶきを利用できるようになりました。いぶきの仲間も法人認可時は30名でしたが、現在は140名以上になり、特に近年は施設整備による定員増や施設利用の制度変更によって

急速に人数も増えてきています。地域で通う場所に困っていた無認可時代を思うと、願うてきたことが実現してきているように感じます。募金活動をはじめとする運動は、今ある課題を乗り越えて次世代の人につなげる活動となっています。

法人は現在、パストラル2期工事を計画しています。地域に通う場は増えてきていますが、私たちの悩みの一つは暮らしの場です。仲間の親や家族が高齢などで子供の支援ができなくなると地域での暮らしがなりゆかなくなる仲間がほとんどです。解決策としてパストラルいぶきというグループホームを作りました。グループホームは経営できる数に限りがあります。2期工事をきつかけに、重度のグループホームを増やしながらも家族の支援を前提としない地域での過ごし方を模索したいです。社会

の仕組みが複雑になってきている中で解決するには多くの課題があります。パストラル以降のここ7年間は募金活動を行っておらず、親の3分の1、職員半数以上は募金を経験していません。募金を含める運動に関する提案は次年度に理事会やファミリー総代会よりありますが、今ある大きな課題に対してもう一度いぶきの活動の原点に立ち返り、もう一度私たちのことを見返し、伝え、支援の輪を広げる機会としたいと願っています。

2 意見交換

会の中では募金活動を中心に保護者の皆さんから以下の話が出ました。

○いぶきはたくさんの人からの募金で成り立っている。それだけ多くの支援をしていただいている。

○募金活動では保護者と仲間と職員が一組になって施設づくりの訴えをしに行った。親が具体的に子ども

ものことを伝えた。伝える中でいつの間にか涙を流すこともあった。

○募金活動では同窓会の名簿に片端から手紙を送り自分のことを訴えて支援の依頼をした。

○昔は子どもが学生時代から未入所の会を作り、卒業後行ける場所を作ろうと一緒に運動していた。学校単位で活動し、手作り品を作ったりしていた。

○当時の活動のやり方がすべていいとは思わなかった。知らない人は一つの歴史があったということは知ってほしい。小学校さえいけな





い時代から少しずつ高等部に行けるようになり、卒業後の通う場もできてきた。みんな必死でそれぞれの人が自分のやり方で取り組んだ。

○知らない人の前で子どものために訴えることは大変だったが、その後、思いがけずあたたかい言葉をいただくこともあり、うれしい思いもしたりした。

3 いぶきのはじまり と4つの募金活動

① いぶきのはじまり

1970年代の養護学校全入運動が全国的に広がり、1979年に実を結びます。この運動がのちに続く作業所作りの土壌となり、1980年に全障研岐阜支部に養護学校卒業後の作業所作りの議論が起きます。1982年6月に岐阜地区に共同作業所を作る会が発足し、月一回の日曜作業所からスタートし、学習会や洗濯ばさみの組み立て作業などを行

いました。そして、廃品回収などで地域を回りながら、1984年4月に岐阜市則武にいぶき共同作業所として常設作業所をスタートさせます。当初は安定的な運営とはいかず岐阜市に働きかけながら送迎車の取得、引っ越し、改修などを行い、新しい仲間を作つていき、1992年には第二いぶき共同作業所を開設させます。

② 法人化

いぶき共同作業所開設以来、施設整備の充実や作業内容の充実、職員の待遇改善のため様々な検討をする中で、徐々に「法人化」への思いが強くなつていきます。1991年6月に「いぶき福祉会設立準備会」が発足して「夢よひろがれ」という言葉が生まれ、第一回いぶき祭りが行われます。1993年に法人化に必要な4300万円を集めるために募金活動を実施します。大きすぎる目標金額や法人の目指すべ

き在り方に意見のぶつかり合いも絶えず、困難な道のりでしたが、保護者や支援者の方々の熱心な働きかけによって、のべ4000人の方々の支援を受け募金計画を達成し、いぶき福祉会は1994年6月に誕生します。

③ 第二いぶき

法人化運動にご協力いただいた方に継続的に支えていただくことをお願いし、「いぶき福祉会後援会（いぶきファミリー）」がスタートをきり、いぶきの活動をはじめとして障害者の地域生活を物心両面から支えていく活動が広がっていきます。また、法人化の実現から2年たつと利用希望者はさらに増え第二施設の必要性が高まつていきます。1997年6月から法人化で行った募金活動をさらにふくらませ、保護者、職員、理事を含め関係者が再び募金活動を始めました。募金目標額の5000万円を目指し

て、福祉の現状、施設の必要性を訴え12月までに目標を達成することができ、1999年に第二いぶきが開所されます。

④ デイサービスセンター コラボいぶき

2001年9月に第二いぶきの隣地に、岐阜市で初の知的障害者「デイサービスセンター」コラボいぶき「施設建設のための募金活動」を始めました。目標金額は1000万円。対象者が不特定ということや不景気の社会事情もありましたが、無事資金が集まりましたが、無事資金が集まり協議書を提出することができ、コラボいぶきは開所されました。2003年に開所したコラボいぶきは休日の余暇支援とともに重度重複障害者の通所施設としての役割を果たしていきます。また、2003年は支援費制度が施行され措置から利用契約制度に移行するとともに自己責任や利用者負担、活動の個別化など後々

に大きな影響を及ぼすことがゆつくりと浸透しはじめます。

⑤ パストラルいぶき

2008年から「両親が亡くなった後も安心して暮らせるホーム」困ったときにもいつでも利用できる「ショートステイ」という仲間と家族の願いから5棟のホームづくりが具体化されました。5000万円を目標にいぶきの関係者の多くが募金活動にまい進し、2009年1月に募金は達成されます。メディアなどでも取り上げられ、募金活動をとおして仲間の願いを発信することができました。2011年に当初計画していた5棟のうち3棟が第二いぶきの近くに完成しました。重度・重複障害のある仲間を含む18名の充実した暮らしをはじめ、また、2室のレスパイト事業では多くの仲間が利用を始めました。

第13回こよみのよぶね



とても幻想的。今年のよぶねは屋形の上ではなく対岸に設置されました。

冬至の夜の長良川を彩るこよみのよぶね。竹と和紙で1から12の数字を象った大きな行灯を載せた舟を冬至の夜の長良川に浮かべ、こよみのよぶねを眺めながら一年を振り返る長良川の一大行事です。アーティスト・日比野克彦氏の呼びかけで始まり、今年で13回目になります。

いぶき福祉会は、昨年度に続き二度目の参加をしました。今回は岐阜の名産の和傘をモチーフに1のこよみ舟を作りました。11月17日、岐阜善光寺さんの弘法堂ホールをお借りしてこよみのよぶね製作ワークショップを開催しました。このワークショップは、長良川おんぱくのプログラムとして地域の参加者の方とサテライトいぶきの仲間たちが一緒に作成しました。一緒に和紙を切ったり、和紙を竹に貼ったり、地域の方々と楽しく交流しながらこよみ舟を作りました。



善光寺さんにてワークショップを行いました。

12月22日冬至の日。これまでは毎年、こよみのよぶねを屋形舟の上に設置して長良川に浮かべ、一

年の出来事を振り返ってきました。しかし、今回のこよみのよぶねはいつもと違いました。7月の豪雨災害の影響で長良川の川底に大量の土砂が溜まってしまい、その工事のためこよみの行灯を載せる屋形舟を浮かべる事ができなくなってしまうのです。そこで今回のこよみのよぶねは、屋形船ではなく、対岸にトラックを使い設置するこ



長良川プロムナードから眺めました。 キレ～！

とになりました。前日、当日早朝からいぶき福祉会のスタッフも参加し、実行委員の方たちと設置準備をしました。サテライトいぶきの仲間たちは、15時に集合し、バーミヤンで夕食を食べた後、鵜飼ミュージアムに行きました。鵜飼ミュージアムの広場の出店で買い物をし、長良川プロムナードからこよみのよぶねをみんなで眺めました。昨年とは少し違う「流れない」こよみのよぶね。静かだけれど温かいこよみのよぶねの灯りをサテライトの仲間たちもみんな

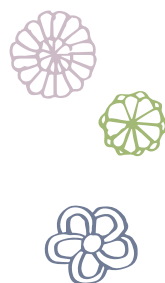


鵜飼ミュージアム四阿にて、色々な出店がありました。

で眺めながら長良川災害の年を振り返りました。

地域の様々な方たちとつながり協力しあっている印象深い風景を作り出す長良川の冬の風物詩こよみのよぶね。一年の締めくくりにこのような地域の一大行事に参加させていただき嬉しく思います。こよみのよぶね実行委員会の皆様ありがとうございました。

西部事業部 原哲治



先月12月15日にメディアコスモスにて映画「夜明け前」の上映と今井友樹監督のトークショー、午後からは統合失調症のピアニスト横島若騎様のピアノリサイタルを行いました。映画「夜明け前」はきょうされん40周年の記念映画として製作され、副題として「呉秀三と無名の精神障害者の100年」と書かれている通り精神障害分野での偉大な先駆者・呉秀三を描いた映画です。呉秀三は今か



(福) 舟伏、森副理事長の挨拶

ら100年ほど前に精神病者の私宅監置を調査し、我が国での精神医療に大きな足跡を残された先駆者で、「我が国十何万の精神病者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重ねる

た。短い時間ではありましたが、映画を製作していく上での苦労話や呉秀三に対する思いなど色々な話を聞くことができました。午後には全国各地での演奏活動とともに統合失調症の啓発活動にも取り組まれている横島若騎様のピアノリサイタルを行いました。オリジナル曲も含め



きょうされん岐阜支部伊藤支部長による映画の説明

ものというべし」の一説は有名です。この映画の監督の今井友樹監督は岐阜県東白川出身の新進気鋭のドキュメンタリー映画作家で、今回は地元での映画上映という事もあり、お忙しい中お時間を作っていただきトークショーを同時開催いたしました。



軽やかで心地よい調べの横島氏ピアノリサイタル

ポップスや聞きなれた曲以外でも即興での作曲を披露されるなど多彩な演奏をしていただきました。今回の企画は社会福祉法人舟伏様ときょうされん岐阜支部との共催によるもので、県内精神障害分



今井監督の映画人生と製作の苦労話で盛り上がりました

当にありがとうございます。今後もこういった他法人様との共催による研修会やイベントを企画していきたいと思います。

西部事業部 池田光巳



会場は満席で関心の高さがうかがえます

野の団体様にも後援をいただきました。当日は200名を超える方にご来場いただき大盛況となりました。社会福祉法人舟伏の森副理事長をはじめ、たくさんの方にご協力いただき、本

「夜明け前」上映会& 横島若騎講演会

開催報告

日本の精神医療の草分け的存在である呉秀三氏の足跡を追ったドキュメンタリー映画「夜明け前」の上映会と、横島若騎氏による講演会「精神障がい者の地域支援活動について」を開催しました。上映会にはゲストに今井監督をお招きしました。



仲間のすがた

きのした
木下 慎一郎さん
しんいちろう

北部事業部 小田 由生



大好きなオートハープ

木下さんは2013年に第二いぶきに入り、こらぼの部屋で活動しています。自分の思いを言葉で伝えることは難しいのですが、ニッコリと微笑んだり、ムスツとしたり、気になることや人に視線を送ったりと表情が豊かな方です。手の動きや体の緊張からも思いを伝えてくれます。その時に「〜だった？」と確認したり、前後の様子や状況から思いを探ったりすることを大切にしています。が、伝えたいことを私たちが

理解しきれていないことが多くあります。また、自ら伝える手段が乏しいために、受け身になってしまいがちでした。そんな中でも大好きな音楽療法では、先生をじつと見つめて『やりたい』とアピールしたり、マイクを配る場面で自分の思いと違うと人にマイクを渡せなかったりと、自ら自分の思いを伝える姿がありました。その姿を見て、他の場面でも『伝えたい、伝えてみよう』という思いが広がってほしいなと思いました。

そこで、木下さんが見通しを持っていて、好きな活動である仕事を通して、もう一度職員とのやりと



指先に力を込めて…

りを大切にしてみることにしました。また、新しい工程に挑戦してみることで、さらに思いを引き出せるのではないかと考えました。こらぼでは紙すきの仕事をしています。木下さんは自助具を使った水入れの工程を担当していました。ミキサーのスイッチ押しに挑戦してみることにしました。ス

イッチといつてもミキサー本体についている小さなボタンではなく、小さな力でも押しやすいように掌サイズの大きなスイッチです。はじめはどうやってスイッチを押せば良いか分からないこともあり、自分からスイッ

チに手を伸ばす姿は見られませんでした。そこで、私が木下さんの肘に手を添えて「こうやってやるんだよ」と伝えるように、右手、左手…と一緒にゆっくりスイッチに手を置きました。そして「押すよ」と声をかけて一緒にスイッチを押しました。すると、二回目は自分からミキサーのスイッチまで手を持っていき、「カチッ」とスイッチを押すことができたのです。私たちは「できたね!」「すごいね!」と大喜びでした。木下さんも職員の反応や大きな音を立てて回るミキサーに『できた』と手ごたえを感じることができたと思います。

その他の工程にも何度か挑戦していくことで、道具を見てもらいながら「お願いできる?」と聞くと、自分から手を伸ばして『やりたい』と伝えたり、顔を下げたまま『今日はやめておく』と伝えたりする姿が見られるようになりました。自分の順番がくると仲間や職員の顔を一人ひ

とり真剣な表情で見つめて『やるよ・見ていてね』と伝えてから仕事を行う姿も見られ、仕事を通して『伝えたい、伝えてみよう』という思いが広がり、手を使ったやりとりや表情、視線は豊かになっていきます。

ただ、職員のやってほしい思いが強くなってしまうと、木下さんが自分でやろうとしているのに過介助になってしまふこと、その日その時の体調によっては頑張らせすぎてしまうことがあります。気持ちと体調を見極めなければ『伝わらない』やられる仕事になってしまったため、職員のサポートの仕方に課題は多くあります。

また、覚醒しているのに姿勢が崩れやすく、自分から手が出てこないときに、「頑張れ!頑張れ!」と時間をかけて仕事を行った後、体調を崩していることに気付くこともありました。あの時は体が辛くて、姿勢も崩れ、手も出てこなかったんだなど後になって木下さんの気持ちと体調



こらば農園にて、ジャガイモの収穫 "よいしょ!"

に気付き、反省することもあります。
職員が木下さんの視線や表情、手の動き、体の緊張や呼吸から、気持ちや体調の変化を敏感に感じ取り、『伝わる』安心感の中で仕事ができるようにサポートしていきたいと思っています。
これからも、好きな活動を通して『伝えたい』思いを引き出し、『伝わった』喜びから人とやりとりすることの楽しさや心地よさを感じ、他の場面でも『伝えてみよう』という思いが広がっていったほしいと思います。一日の最後に今日も良い日だったなと思ってもらえますように。

仲間のすがたを 読んで

大堀 愛子

木下さんと私は同期です。私自身期待より不安と緊張が強かった4月の入社式の日、「お互い頑張ろうね」と木下さんに声をかけたことを覚えています。入社当時の木下さんは、泣いて気持ちを表現することが多く、辛さや不安を自分の中で我慢して我慢して、こらえきれなくて涙となって思いがあふれてくるようにみえました。体調が不安定で体の辛さに加え、環境の変化や一から人と関係を築いていくことの大変さに毎日めいっぱい気持ちを振り絞っていたのだと思います。気持ちに余裕がなく、音楽療法や仕事などの活動中には、注目されることも負担に感じて泣けてし

まうほどでした。

そんな木下さんいぶきの一員になって6年経ち、当時とは別人のようにたくましく、頼もしくなりました。仕事は「職員と一緒にいう仕事」から「一人で自信をもっていう仕事」へと変わってきています。小田さんをはじめとする職員が、木下さんが「やっ



夏はひんやり「足プール」

てみようかな」と思えるように誘いかけ、「やろう」と気持ちが動いたかどうか丁寧に見極めながら支援を行ってきたことで、今の木下さんの姿へと変わってきたのだと思います。やらされるのではなく、主体的に取り組むからこそ手ごたえを感じ、

注目されることもプレッシャーに感じることなく自信に繋がれたのではないのでしょうか。小田さんは木下さんの表情や体の力の入れ方などの小さな変化に気を配り、「やりたい」気持ちも「やれない」本人の事情もどちらも大切に受け止めていきます。どちらの思いにも気

付き、丁寧にやりとりすることで木下さんは安心して気持ちを伝えられているのだと感じます。今年度に入り、小田さんがチーム会議の中で木下さんの手の動きについて「何かをするための活動の手」だけでなく、人と触れ合う、気持ちを伝えあ

う「コミュニケーションの手」にならないか?と提案してくれました。毎朝小田さんは木下さんの目を見て「おはよう」と手を差し出しています。まだ木下さんが握手にこたえてくれることは少ないですが、手を差し出してくれるのをじっと待つ小田さんの表情や声かけに、木下さんの心は動いているのではないかなと思います。自ら差し出した手が「コミュニケーションのきっかけになることを知り、いつの日か握手した手から「おはよう」「ありがとう」「やったね」「また明日」と色んな思いをお互いに伝えあうことができるようになるの嬉しいです。これからも、木下さんが人とのつながりに自信をもち、心地よくやりとりができる関係を広げ、深めていけるよう職員みんなが支援にあたりたいと思います。

いぶきファミリー(旧後援会)の活動について

第2回

前後に引き続き、今回の座談会は、「いぶき福祉会の職員が考えるいぶきファミリーの活動について」話し合っています。参加者はいずれもいぶき福祉会職員で事務局を中心に右記のメンバーです。座談会の掲載は全2回のうち、今回は2回目となります。

● 横幕 嘉行 いぶき勤務 23 年 (ファミリー会長)
● 伊藤 慎悟 いぶき勤務 6 年 (事務局次長)
● 澤井 大輔 いぶき勤務 10 年 (事務局次長)
● 今尾 美穂 いぶき勤務 2 年
● 山本 友美 いぶき勤務 2 年
● 加藤 亮太 いぶき勤務 8 年
● 森 洋三 いぶき勤務 19 年 (進行)

※いぶきファミリーと旧名の後援会(いぶき福祉会後援会)がいろんな場面で出てきますが、今回は発言のままに記載しています。

森：後援会がいぶきを支援してきていたから、いぶき福祉会は借金が少なくてその分、人手や設備など仲間の支援にお金を使えているという部分はあって、後援会がいぶきの実践を支えてきたところがあるんですが、みんなにわかりにくいですね。毎年頑張ったことが報われているのか分りにくいというのはとてもよくわかります。

加藤：ほかの施設の話を聞くと、いぶきがより多くの人手をつけてよい実践をしようと努力しているんじゃないかなと思います。それはいぶきの中にいると気づきにくいと思う。いぶきではこれが普通だから。でも、いろんなところで動いているということを感じてほしいという先輩たちの気持ちがある

のもわかります。いままで一緒に頑張って壁をぶち破ってきたけど、これからどんな壁や目標があるかはみえづらいです。
今尾：お金だけの目標だとわかりにくいですよね。私も事務局の担当が来た時に正直ああ役割が来ちゃったと思うことがあった。
何をやるのかイメージもわきにくかったし、入ってみても、やってといわれることはやるけど、やったことはわかりにくかったです。自分の中の目標や達成感もつけづらかった。去年一年担当だったけどよくわからない部分も多かったです。

森：分りにくいところはあったと思う。職員に管理職が気を使っているという部分もある。(笑)あまり負担をかけてはいけないという気持ちもある一方で今までの歴史もあつてがんばりたいというところもあり、迷いが出で、明確な目標やお願いがでないこともあった。
今尾：しっかり担当を分けたからこそ、後援会自体をわかっていない人も多いし、関係ないと思っている人も多いと思う。
加藤：後援会担当はいやなく引いてしまった感しかない。業務内でやったとしても、わかりにくい業務だから、他の業務で力を注ぎたいものもある。
森：全職員にやりましようといったこともあったけどそれもうまくいかなかった。関わる人が多くなりすぎて収拾がつかなくなつて。
澤井：いろんな行事で調整が多くなつてしまつて、やはりやることには適正人数というものがあると思います。
森：どうすればいいかな



する。

利益や数字の為にという
となかなかやりにくい。

山本：見えないものに対
して意欲はわきにくいで
すよね。目標があるとい
い。

加藤：お金などの数値目
標も具体的な形になる
ものだとかかりやすいと
思う。今までのパストラル
などの募金活動はそう
やって会員を獲得してき
たと思う。

森：昔は一つの施設を作
ることがみんなの共通の
目標で分かり易かった。
いぶきがとても大きく
なってきたから、関わる
人が欲しい『具体的』もの
もそれぞれで違ってきて
いるように思う。年を
取ってれば生活する場、
若ければ働く場、職員で
あれば働く環境など、共
通の具体的ものをどう描
いたらよいかは難しく
なってきたように感じ

じる。

山本：そうですね、後援
会で頑張っていることは
たくさんあるけど、それ
が役に立っているという
ことが本当にわかりにく
くなってきている。そこ
らへんが分かりやすくな
れば、現状をレベルアップ
する改善点もたくさん
でてくると思う。例えば、
バザーなんかも、今は担
当になったから言われた
ものを集めてもっていっ
ているがこの収益で何を
目標とするか意識する
だけでも違ってくると思
う。

加藤：いわれてやるとい
う仕事の仕方はよくない。
自分の意志で仕事をして
いかなないと。いぶきの仕
事は言われたからやって
きたつもりはないので、
後援会の仕事も前向きに
やりたいならやりたいよ
うな環境が整うといいと
思う。前向きにやってい

る人がすごい汗水を垂ら
して働いていたときに、
涼しい顔して休憩してい
る人がいると、やってくれ
ている人にとっても申し訳
ない気持ちになる。ただ、で
きない人に無理にやらせ
ることはできないし、そ
の人を批判しても何もし
ないことはないので、その人
の存在感を生かせる形が
ないかと思う。ちよつとラ
イトな気持ちでできると
か、気軽に参加できるよ
うなものがあるとよい。
例えば、大金はむりだけ
ど10円なら寄付できる
というアクション自体を
大切にしたりとか。後援
会でも仲間の意見が出た
ときにライトな人でも寄
付できる仕組みがあると
かそんなプロジェクトが
あったときにやろうや
ろうと集まってくれる人
がいるといいなと思いま
す。

たいという気持ちを大切
にできるとよい。いぶき
まつりなどの後援会の活
動もいままでたくさん
人たちのモチベーションで
やってきていて、いまある
けど、その活動の意味は
もう一度考えることも必
要だと思う。

森：後援会業務で成果
がとてもしっかりにくい
すよね。頑張ったからす
ぐ成果が出るわけでもな
く。逆に、頑張っているの
に批判されることもあつ
て。でもせっかく頑張つて
いるから成果が見える方
になるといいですね。後
援会活動が、ここにいら
仲間たちを何とかしよ
うという中で始まったので、
今尾さんが言ったように、
今回ファミリーの会員に
仲間が位置づいたことで
もう一度仲間を中心に据
えて活動を見直せるとよ
いです。

くちや大事にしていく会
になつていくといいと思
います。仲間の声を大切に
して、意見が出たときに
きちんと検討していける
といいなと思います。

今尾：仲間の本当の声を
聴いていくって本当に難
しいと思う。

山本：前の通信に載つてい
た仲間の座談会で過去に
は個別に希望の場所にお
出かけをしていたことが
楽しかったという記事が
あり、ああ自分の思いで
行きたいところに行ける
ことがやっぱり嬉しいん
だなと思いました。

森：そうですね、昔、20歳
のお祝いでビアガーデン
に行ったのをきっかけに
個別に好きなところにお
出かけしていたこともあ
りましたね。とてもいい
ことだったけど全員にと
なると難しかったりして、
なかなかできなくなつ
てしまいました。



山本…年に一人とかでもできるというですね。

森…施設に60人いるから、回ってくるのに60年かかってしまうので、全員に回るのにあまりにも時間か…。

でも、非現実的なところでも気軽な雑談の中からやってみようと生まれてくる活動も多かったから大切にしたいですね。今は忙しくてそんな雑談も

難しいのかもしれない。**加藤**…後援会も会はとも大きくなったので、やりたいという気持ちや仲間のそういう一つ一つの声を大切にしていける活動をしていけるといいと思います。大きな目的は地域がよくなるかですが、

隙間を埋めていくような小さいところでよいのそんな活動があると思います。

澤井…今回(第二いぶきで出店した)、ギャラリーア

ダチの展示会も地域に出ていくという意味では後援会的な活動だと思う。意識していないけどそんな活動はたくさんやっているように思う。僕は後援会活動をやっていて、友達になかなか会員になつて言いにくく…。頼みにくくないですか？

みんなから、後援会って何それって言われる。

逆に、FCぎふの試合に友達と行って、友達がファンクラブに入っていない場合、入ろうかって言いやすいと思う。

どうしたらいいかって思うと、まずいぶきの名前を売っていくのがいいのかなって思う。いぶきの名前をみんな知っていて、「あつ、あのいぶき。知ってる」となってくれるのいい。そんな活動が後援会活動なのかなって思います。だから、ギャラリーア

ダチに出展したり、お祭りでかき氷を売ったりなんか後援会活動だと感じる。お金集めにも名前が売れているほうがいいと思う。法人の規模は大きくなくて、(法人に比べると)財政規模は(10分の1以下で)小さくな

ってきいている。お金も大事だけど、まずはいぶきが素晴らしいところだよって知ってもらうことを提供するほうが良いと思う。(いぶきにかかわる)みんなにも実はみんなこのような活動はやっていて、続けていこうっていう感じのほうがいいかわりやすいかなと思う。10年前に比べたら、施設の各グループに素敵な商品が増えたから、その良さ(ストーリー)を伝えていくことも(活動に)つながると思います。昔は、みんな同じ仕事をして自主製品なんかなくて昔では考え

られないくらい充実していると思う。それをどう広げていくかって話だと思う。

山本…そういう感じで広がっていくといいですね。それは是非やらせて、応援したいってなるといいですね。

澤井…だいたい壁が遠いなって思いますけど、その一歩として踏み出すしかないと感じています。

山本…(関わる人が)簡単で、それだったらやれるよっていう、気軽なものがあるといいですね。わかりやすく声掛けしやすいアイテムをつくるのがいいですね。

澤井…世間の意識でいうと福祉のことってわかりにくいと思うんです。一番わかりやすいのは、きっと商品だと思う。例えば、マドレーヌだったりかりんとうだったりとか、それが素晴らしいものであれ

ば、そこから興味がわくかなと。その人が好きな商品になればそれを作っている人にも愛着がわくようになると思う。まだ、自主製品を作り始めて10年位しか経っていない。これをもっと何年も続けていく中で、たくさんの人がいぶきの商品知っている、あのいぶきかかって

なってくれるといい。

加藤…そうやって、仲間が誇りをもって作っているものでお金も稼げて地域も広がっていくっていいですね。僕も野菜を作っているんですが、野菜を売ったお金が仲間の給料になって、その野菜を買ってくれた人がいぶきのことに興味を持ってくれるって広がっていくのはうれしい。

澤井…そう、それでいぶきを好きになつてくれて、応援するために後援会に入るって言ってくれる



ひとができるといいと思ってる。ただ、壁があるとと思うから地道にやってみていく必要があると思う。
横幕…そうやって輪を広げていった人もいざというときに頼りになる人ですよね。すそ野をひろげるってそういうことだと思います。

昔は、切手やテレホンカードとかビール券など身の回りのものを提供いただいて何でもやって資金作りをしていました。親御さんも苦労されて、昔の親御さんは熱意をもってやってくれるひとがたくさんいて、新しく入ってこられた人たちに歯がゆい思いをしていることもあると思う。

職員でも、無認可の運動をしていた人たちと法人認可されて、当たり前給料がもらえる人ではやはり意識は違うと思う。
加藤…多様な部分は認め

ていかなないとやっていけないですよ。
横幕…そうですね。バリバリ運動をやっていた世代とそのあとそれが当たり前前に入ってきた世代と感覚が違うのは当たり前で、みんなを巻き込んで後援会をやっているかといえないですね。なんでも参加を強制するのではなく、簡単に取り組めることを気軽に参加してもらうのが大切だと思う。
山本…総会とか会議だけでなく、気軽に交流とかができるといいですね。
加藤…いろんな意識の違いはある。それでもいいから、次はどうしていいかとお互いが話し合えるといいです。

具体的にはなかなか思いつかないのて日々の業務を一生懸命やっていくのがいいとおもって、なかなかいろんな活動までできていないんだけど。

障害のある人が、へりくだって助けてもらうのではなく、同じフィールドでやり取りするという意味でも後援会の在り方も一緒に歩んでいきましようよという感じに変わっていくのがいいと思う。農業をしていると自分たちではできなくていろんな人に支えてもらってやっていて、いぶきもいろんな人に支えられていると思う。それがもつと見える形で太くなっていぶきがよくなることを通して社会もよくなっていくみたいになるといい。後援会自体はとても大きい組織になったから力もあると思う。関わる人だけいえば、千人単位だからいろんなことを変えていくきっかけは作れると思う。
森…私たちが普段やっている魅力や価値を生み出していることを共通認識として言葉にできて、広げて

いけるといふようなことが変わっていく気がする。周りの人も関わりやすいと思います。
横幕…澤井さんが言うようにいぶきブランドを知って関わる人が増えるといいです。
山本…そうですね、そうやって支えたい人の輪が広がっていくとうれしいです。
澤井…仲間のために応援してくる人と、自分の元気のために応援してくれる人、両方いるといいですね。いろんなスタンスの応援する人がいるとありがたいです。

いぶきは昔に比べたら、とてもいろんな人が増えたと思います。年代、職種、立場など、いかにも福祉という部分から違うところまで、多様になってきていて、できることもたくさん増えてきていると思います。そんないい部分も



2回にわたる座談会はいかがでしたでしょうか。

座談会や通信に関する

ご意見、ご感想をお寄せください。

〇フォーム：<https://goo.gl/forms/1UFHPAlnUdGcSVqB2>

〇メール：ibuki.m@ibuki-komado.com



たくさんあるので活かしていけるといいと思います。
横幕…今後もみんなで頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願ひします。

『がんばるデー』 がんばりました！



先月12月4日の午前中に岐阜駅前で街頭署名及び募金活動を行いました。これは「きょうされん岐阜支部」の活動の一環で、毎年きょうされんが行っている国会請願署名・募金運動全国キャンペーンになります。この活動の請願趣旨や5項目にわた

る請願項目については、今回の通信に同封されている署名用紙を是非ともご覧ください。昨年は強風の中、署名活動を行いました。今年はとても暖かく屋外での活動でもあまり寒さを感じないほどではありませんでした。県内にあるきょうされん加盟の施設から7施設50名ほどが参加し、師走のあわただしいなか駅前を行き交う人々に声をかけました。いぶき・第二いぶきからもたくさん仲間たちが参加しました。署名していただいた方の中には「大変だけど、がんばってね」と声をかけて下さる方も見え



浅井様に要望書をお届けに行って参りました。参加者は10名ほどでしたが、ひとりひとりから今困っていることやお願いした

改めてこういった活動の大切さを実感しました。午前10時半から1時間ほどの署名活動でしたが、96筆の署名と6,672円の募金を頂くことができました。このようなあたたかいご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。午後からは岐阜県健康福祉部障害福祉課課長の



いことを直接お伝えすることができ、大変有意義な時間となりました。きょうされん岐阜支部加盟施設でまとめた要望書をお渡しした後、浅井課長からは岐阜県より国に対しても要望を伝え今後とも障害福祉サービスの充実に取り組んでいくというお話をいただきました。浅井課長をはじめ県庁職員の皆様ほか多くの方のご協力いただきましたこと、また今回の活動においてご協力いただきました全ての皆様に、この場

をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。この第42次国会請願署名・募金活動全国キャンペーンについては、4月いっぱいまで行っています。障害のある人々を支える制度づくりのために皆様のご協力をよろしくお願い致します。

きょうされん岐阜支部
事務局長 池田光巳





第42次国会請願署名・募金運動キャンペーンにご協力を！

いぶきでは加盟するきょうされんを通じて、障害福祉についての制度拡充を求め
るため、国会請願署名にとりくんでいます。

日本政府が障害者権利条約を批准して5年がたとうとしています。障害者差別解消
法などの法制度が整備された一方で、障害のある人の権利を侵害するような事例
も次々と明るみに出ています。今回取り組んでいる署名は障害があっても「あた
りまえに働き えらべる暮らし」を実現させるために取り組んでいます。同封す
る署名用紙へご協力いただければありがたく存じます。ぜひ多くの署名を集めて
私たちの願いを国会へ届けましょう。

◆集まった署名はいぶき福祉会の各施設・職員・関係者にお渡しいただくか、郵
送してください。

◆署名用紙が足りない場合はいぶきにたくさんありますのでご連絡いただくか、
各自コピーいただいても結構です。

岐阜信用金庫ロビー展 第3回

開催期間

1/28 月曜日

2/28 木曜日

場所：岐阜信用金庫近島支店
岐阜市近島 5 丁目 3-5
平日：9:00～15:00
観覧無料

いぶき
アート展

地域とつながり、
ゆめをつむぐアート展
いぶき福祉会の仲間の作品を
岐阜信用金庫近島支店に展示
していただきます。
お近くにお越しの際は、ぜひ
お立ち寄りください。

《いぶきファミリー総代会のお知らせ》

いぶきファミリーでは、一年間の振り返りと2019年度に取り組んでいくことを、いぶき
利用者・法人役員・職員・保護者それぞれの代表の方（総代）とファミリー役員で話し
合って決めてまいります。

つきましては、下記の通り、いぶきファミリーの第1回総代会を開催いたします。

会員の皆様にはご関係する総代の選出と話し合いへのご参加をお願いいたします。

賛助会員の皆様におかれましても、随時事務局までご意見お寄せいただければ幸いです。

総代会の内容については次号にてご報告いたします。

日程 4月17日(水)10時～11時

場所 いぶき（岐阜市島新町5番9号）



夢よ
もっとひろがれ
1月号

情報掲示板



いぶきファミリー賛助会員への新規加入・更新をよろしくお願い致します

[振込先] 郵便振替：00840-3-91146 加入者名：いぶき福祉会後援会

[年会費] 個人：一口 2,000円 団体：一口 10,000円

[問合せ] いぶきファミリー (いぶき福祉会後援会) 事務局

TEL 058-233-7445 FAX 058-232-9140

E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp (タイトルに賛助会員と入れて下さい)



●オンラインでの入金もできるようになりました。下記アドレスやQRコードよりアクセスしてください。

いぶき福祉会canpan決済

<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>



●いぶきファミリーへの入会はJＲ岐阜駅の「ねこの約束」でも手続きしていただけます。

編集後記



十一月二七日から二九日にかけて、神奈川県平塚宿から東京日本橋間七〇キロを歩き、京都三条大橋・東京日本橋間延べ二六日間、五六七キロ・九八九四一二歩の旧東海道路徒歩の旅を完歩しました。

今まで点と点の移動の旅をしてきましたが、今回点と点をつなぐ線の旅をすることによって、現代日本の実相を細見することができました。

さらに道すがら出会ったいにしえの遺構と重ね合わせて、時間軸を加え三次元的に日本の歴史をとらえることができ、日本の文化のすばらしさ奥深さを、実体験することができました。続いて現在旧中山道を辿り、木曾福島宿まで到達したところです。

編集委員長 林守男